

令和7年度 多良見東・喜々津地区 語らん場

令和7年8月19日(火)たらみ会館で実施。前年度の語らん場が認知症について地域で考えるきっかけとなったことで、今回はより具体的に、**地域で認知症の方を見守るために何ができるのか**等の内容を意見交換しました。また、参加者の一人でもある「認知症の人と家族の会」の方から話を実際に聞くことができたことで、より**地域での見守りや地域のつながりの必要性**を身近に感じることができました。



↑ SC作成のパネルで、自他地域活動をご紹介します。



↑ 多くの住民の方が集い、語り合いました!!



今回は地域ごとにグループワークを行い、自地域について気兼ねなく語り合いました。

認知症の人は何もできなくなるのではなく、認知症になっても一人一人ができること、やりたいことがあり、**住み慣れた地域**で仲間とつながりながら希望をもって**自分らしく**暮らし続けることができる。

自分や家族が認知症になったとしたら隠さず、地域の方に話ができるような雰囲気が地域全体にできて、いつでも「**助けて**」と言えるような**関係が**地域で作ることができたら良いと思う。



認知症の人と家族の会
長崎県支部 代表 太田氏
より体験談を話してもらいました。

参加者のみなさんから、
たくさんの**声**を
聞くことができました!

地域のみなさんと一緒に、
みんなで**助け合い・ささえあい**
ながら、今後の若い世代に
つながっていけるよう地域
づくりができればと思っている。

- 地域とのつながりが大事
 - 困りごとを相談できる場所を知っておく
 - 近隣との気を使わなくても良い関係性づくり
 - 認知症についてや認知症の方への声かけや対応について学ぶ
- など...

さらに
地域へ...

- 老人会でも今回聞いたことを話したい
 - 自分の地区で(語らん場に)参加していない方に伝えたい
 - 地域で、認知症サポーター養成講座を受講できたらと考える
 - 認知症に対する理解を地域へ発信したい
- など...

昨年度に続き2回目の参加。
昨年より顔なじみの方も増え、
語らん場でみなさんと
話ができることが楽しい!!

認知症の方やその家族を地域で**見守り・ささえる**ためには、地域や住民の方が自分事と捉え、**自分や地域で何ができる**のかということを軸に様々な意見が出ていました。さらに、語らん場で得た**情報等**を**地域に持ち帰ろう**という意見も多く聞かれました。

今後も**語らん場**が住民の方にとって**自分の地域のことについて考え、動き出す**一歩につながるきっかけづくりとなるよう取り組んでいきたいと考えています。また、生活支援コーディネーターとしても地域のみなさんの声を聴き、地域づくりのための**サポート**をしていきます。